

新庁舎西棟建設調査特別委員会記録

令和2年2月26日(水)午前9時59分～午前10時36分(908会議室)

○出席委員(11名)

委員長	後藤 善次	副委員長	阿部 亨
委員	佐原 真紀	委員	二階堂利枝
委員	萩原 太郎	委員	鈴木 正実
委員	羽田 房男	委員	高木 克尚
委員	小松 良行	委員	村山 国子
委員	真田 広志		

○欠席委員(なし)

○議題

1. 委員長報告について
2. その他

午前9時59分 開 議

(後藤善次委員長) ただいまから新庁舎西棟建設調査特別委員会を開催いたします。

初めに、委員長報告についてを議題といたします。

お手元の委員長報告(案)を御覧いただきたいと思います。前回ご協議いただきました骨子案を基に正副委員長手元で委員長報告の案を作成いたしました。

なお、骨子(案)については各党派からご意見を頂いております。社民党・護憲連合さんからは、施設の規模を考える上で、議員定数は35名に加え、車椅子のスペースを設置しておく必要があるのではないかと。また、議場の多用途利用については、子ども議会や記念コンサートは可とすべき。それ以外の一般的な貸出しは否。委員会室については、議会事務局が管理することを前提とし、庁内の会議での利用は可であるが、市民への貸出しをすると混乱を生じる場合があるため、市民への貸出しは否とすべき。全員協議会室については、議場を代替利用は可能とのご意見を頂きました。

また、委員会室の市民への貸出しについては、真政会さんからも同様に、運用面で支障を来さないように慎重に検討すべきとのご意見を頂いております。

それらの頂きましたご意見を踏まえ、委員長報告案を調製させていただきましたので、まずは一度黙読をいただきまして、その後、内容についてご意見を頂きたいと思っております。

短時間で委員長報告までまいりました。お読みいただければ分かると思うのですがけれども、流利的には今ほど確認させていただいた内容です。冒頭、もう既にご確認はいただいておりますけれども、

その部分につきましては、二階堂委員はじめA班の皆さんから、これまでの経緯等々、確認の意味を踏まえて、課題等も書き出しに入れさせていただきました。それから、これからのテーマはどのようなものであろうかというような参考人の方のご意見などを基に組立てをしております。そして、中身に入ってまいりますけれども、2点重要な点をピックアップさせていただきました。そして、それを基に提言として、部屋の大きさなど基本になるための議員数、議会関係の諸室など、その辺について確認をさせていただいております。そして、提言として、時間軸あるいはライフサイクルコストについての公開であるとか、その辺を確認させていただいて、最後に防災についての頂きましたご意見を付け加えさせていただいているという内容でございますので、ご確認をいただきたいと思っております。

【資料黙読】

(後藤善次委員長) 大体よろしいですか。

それでは、ただいま御覧いただきました委員長報告の案につきまして皆様からご意見をお願いしたいと思っております。

(小松良行委員) 3ページですけれども、3行目、1点目の持続可能な調査とはとか、2点目の機能変化が可能な施設整備とはとなっておりますけれども、ここで1点目の将来を見据えた、2点目のフレキシブルな整備と、こう入ってくるので、ここ、なくても文章つながるのではないのかなというか、くどのような気がするのですけれども、何かちょっとここは切っても。というのと、同じ3ページでは、ここで2点目のフレキシブルな整備ということで、また締めくくりにも多様な使い方ができるフレキシブルな整備をすべきであるとなっているのですけれども、2回フレキシブルと言わなくも、例えば多様、多目的とか、多様な使い方ができるだけでも十分なような感じがしました。読んでいてちょっと、あれっというのはその2点だけなのですが、あと大変申し訳ありません。付け加えます。1ページの後段の部分です。これ40年にわたり公共施設、インフラ資産の改修、更新に係る費用が年間101.7億円不足するという試算も示された、これ前にも説明があつて、このとおりなのでしょうけれども、これだけ不足するのというふうに、庁舎がどうなのだというのは、これ入れる必要があるのか。ただ、これって、説明にもあつたとおり、今再編整備が必要な公共施設のインフラのみならず、道路とか、そうした施設全てでもっての不足試算ということだったと思っております。現施設をさらに耐震を強化したり、それをずっと持続していくのにこれだけかかるよという言い方ではなかったような気がしていて、この辺が捉え方として、聞いた人がどんなふうを感じるのかなというところがちょっと引っかかるといえば引っかかる場所です。

感想も含めて、以上です。

(村山国子委員) 1ページの7行目のところからだったのですけれども、平成25年度の西棟の完成を待つばかりでありましたという、既に建設されていて、完成を待つばかりのようなイメージになってしまうので、建設に着手するばかりでしたとかのほうがいいのかと思われました。

あと、2ページからの文章の構成なのですけれども、1つ目、2つ目と言って、1つ目、2つ目、

1つ目、2つ目と、そういうふうに進んでいくのです。なので、ブロックとして1つ、2つ目のブロックとしてとまとめたほうが文字の重複とかが少なくなるのかなというふうに思いました。これは構成です。中身はすばらしいと思います。

(羽田房男委員) 1つお伺いしたい。2ページの17行のところですか。人口ビジョンの、これはパターン1でした、2でした。どちらを示しておられますか。2040年の本市の人口が22万6,000人までというところになりますと、人口ビジョンの、現状でいけばパターン1で推移するのです。ただ、施策を考えたときに、パターン2で推移させると、するという目標値なり計画で進んでおるので、この数字はパターン1ですか、パターン2ですか。そこをちょっと気になったのですが。

(後藤善次委員長) これ、もう少しこの内容について何か付け加える部分は必要ですね。どういう数字であるかということ。

(羽田房男委員) ここは、ちょっとお伺いしたかったです。

あと、続けてよろしいでしょうか。同ページの8行目なのですが、そして現在、除染関連事業は徐々に終息に向かい始めておりというところですが、現在は本市の復興は道半ばであります。除染関連事業については徐々に終息に向かい始めておりというふうに、提案理由の説明、市長なんかでも、復興は道半ばでありますというくだりが示されておりますので、おそらく今回の3月定例会議にもそのようなことが言及されるのではないのかなというふうに思いますので、復興は道半ばなのだけでも、関連事業については確かに9万2,000件余りの住宅の除染、さらには道路側溝、さらには農地、森林も含めて、計画どおり終わったということですが、現在残っておるのは仮置場の搬出と中間貯蔵施設というところは非常にネックになっていますが、その全体を合わせると道半ばであるというところをちょっと加えたらいいのではないのかなというふうに思います。

あと、これもちょっとお聞きしたいのは、次の3ページです。11行目ですが、ICT化、化ける、化というふうにはならない、あとはその後なのですが、ドローン運用、ドローンというのはただの飛行体なので、それを飛行体をどうするのと、運用ということを入れてはどうなのかなというふうに思いました。

以上です。

(真田広志委員) 私も小松委員と同じところ、引っかけたのですけれども、今後40年にわたり、公共施設、インフラ資産のって、公共施設分だけでいうと27億円ぐらいなのですよね。さらに言えば、過去5年間の投資的経費との比較においての不足分なので、現実的にそれが不足するという事ではないので、その辺を正確に書くか、もしくはもうちょっと表現を改めないと、市民の不安をあおるだけになってしまうので、その辺ちょっと表現に気をつけたほうがいいかなというような感じはしました。

以上です。

(後藤善次委員長) ほかにございませんか。今出されたご意見についても、もしご意見があれば。

それでは、ただいま頂いたご意見を確認させていただきます。まず、1ページ、7行目、西棟の完成を待つばかりというところについては、建設に着手するという意味合いのほうがよいのではないかと。

それから、同じく1ページの一番下の101.7億円不足するというこの数字について、もう少し表現を変えていく、この数字をストレートに出せるかどうかというよりも、本来こういう不足が生じているというところをお伝えするほうがかえってか市民の皆さん分かりやすいのではないかというような考え方でいいですか。

(真田広志委員) 確かにインフラ資産まで含めるとこうなっているのだけれどもということなのですよね。インフラというか、上下水道とか、そういった部分を全部ひっくるめたら101.7億円。ただ、過去5年間の比較で、その5年間でふだんの投資的経費より若干少なめの年というのはあるのですよね。そういったこともいろいろ比較していくと、比較対象としてなかなかどうなのかなという。

(後藤善次委員長) そうですね。お金が不足することを考えて、やはりライフサイクルコストに結びつけるためにこの数字をここで表したというところがありますけれども、そこに結びつけるためのまずは入り点としてどういう表現方法がいいかどうか、そんなような考え方で進めればいいですかね。

それから、2ページに行きまして、文章の書き出しのところの一方という言葉が段落別にしていく考え方で、この言葉をどういうふうに使っていくかということをやっと再度検討いたします。

それから、8行目、除染関連事業についてですが、現在の後に、復興は道半ばであるという文言を追加すると、それで除染関連事業は徐々に終息に向かい始めておるという結びつけのほうがいいのではないかという意見がありました。

それから、17行目、22万6,000人まで減少するというこの数字の説明をもう少し入れたほうがいいのではないかと。

それから、3ページ目に来て、3行目から6行目まで、1点目、2点目、そして7行目からその1点目を詳しく、また16行目から2点目を詳しく説明をしておりますけれども、これはもう合体してしまって、言葉をつないでいっていいのではないかと。最後、22行目から23行目に続いては、2点目の説明ですけれども、最後にまたフレキシブルな整備をすべきであるという言葉はなくてもいいのではないかとというようなご意見でありました。

ほかに何かございますか。今のような内容でいいですか、皆さんから頂いたご意見については。

(村山国子委員) 2ページの人口減少の22万6,000人のところだったのですけれども、何もしなければこの人口というふうになっていて、福島市では対策をして26万人に維持しますよというふうに一応目標を掲げて、いろんな施策をやっているのです。なので、この数字でいいのかなと、説明していいのかなという、そういう気はあるのですけれども、ちょっとこの扱いを。

(後藤善次委員長) 22万6,000人を載せるかどうかも含めて、人口減少になるということはどういうふうに表示していくかということを検討したほうがよろしいですね。

(村山国子委員) はい。

(羽田房男委員) そうということなのだ。だから、パターン1、パターン2で説明すると、ちょっと枕に2行ぐらい足さなければいけないと思うのです。現在こうですけれども、本市はこういうパターン2、こういう施策で取り組んでいますと2行半ぐらいとか3行ぐらいの頭を足さないと、この数値というのは分からなくなってしまう。私たちは、人口ビジョンということで言われていて、説明もされているので、パターン1か2かというのは分かるのですが、やっぱり市民の皆さんにこの数値、パターン1で示すようになって言ったら、えっ、何ですか、これというふうになってしまうので、その辺は非常に表現が難しいのかなと思います。

(後藤善次委員長) この現設計は、言ってみると、人口がこのぐらいの人口に対しての現設計であったと。今後人口減少が進んでいって、このぐらいの人口になるであろうということから規模的なものも考えていかなければいけない。あるいは、ライフサイクルコストもこう考えるべきだろうというような、導入の部分なので、今おっしゃられたように、この22万6,000人がいいものなのかどうか、人口減少になっていくというところ、そこをどのように表現していくかというところをちょっと考えさせてください。

(羽田房男委員) 委員長おっしゃるように、議員定数も46人から出発をして現計画が立てられていますよというところの頭出しがあるので、よろしくをお願いします。

(高木克尚委員) 最後、当委員会として提言する内容が4ページの16行目から始まりますが、数を幾つ提言しているのかなとか、一目で見えないのですけれども。これ全体で1つだと。

(後藤善次委員長) ここは、私もとても考えるところでありました。それで、現段階で提言できるものというのは、市民の皆さんが考えていらっしゃるようなこと、それから時代が変わっていくものに対しての物の考え方というもの、それからもう一つは議場の使い方、議会の、その市民の方に対しての考え方というものをどういうふうに表示していくかというところで悩んだのですけれども、ライフサイクルコストといういろんな意味合いを含めたもので1つ提言をしておくことで、まずは今回の提言のかなという思いなのですけれども。

(高木克尚委員) 提言するときは、提言書ってまた新たに文書を作るのでしたっけ。

(後藤善次委員長) 市長に提言する際は、提言書だよな。

(書記) これは、委員会としての委員長報告になりますので、これを提言とすると、福島市議会として議長名での提言書という形で、また別なものにして渡す形です。

(後藤善次委員長) 市長に渡すようになりますよね。

(高木克尚委員) 何か遠慮がちな言葉の整理になっているので、もうちょっと、かくあるべきという意思表示があってもいいのかなとかということなんです。

(後藤善次委員長) 何か提言として項目を入れるものがあれば。

(高木克尚委員) 例えば5ページの3行目、4行目、再検討が必要ではないかと思われ、とあり

ますが。

(後藤善次委員長) この防災機能については、今回の諸元ということのまとめについては、まずは議員の定数と、それから議会関係の重要な部屋の扱いについて、これが私たちが検討していく分野ではないのかなど。その部分についてはこのようなまとめ方をさせていただいて、西庁舎を考えた場合にはやはりライフサイクルコストが大事ではないのかなど。多用途の使い方と、それから時限的な問題というのですか。最後に、この防災機能については、もう少し調査もしていくことが必要でしょうし、具体的には地下よりは2階のほうがいいのではないかというふうなご意見もございましたけれども、それは私たちから提言していくものなのかどうかというものも含めて、検討してもらいたいという位置づけにさせていただいた、そういう思いなのです。

(高木克尚委員) あと、意見というより感想ですが、世間的にまだまだ西棟のことを議会棟とと思っている市民の方がたくさんいらっしゃる、大きな誤解なのですが、議会棟なんか要らないなんていう過激なご意見、お考えの市民の方もいらっしゃいますので、今回の提言は本当に大切な提言であり、大変よく取りまとめをしていただいた正副委員長に感謝申し上げたいと思います。

(萩原太郎委員) 先ほど4ページの16行目で、以下提言しますという、何か提言になってしましますので、これが提言でないとすれば、検討を要するとか、何かそういうふうな部分にしないと、上の1つ目、2つ目に併せて、この3つ、4つが何か提言として捉えられるというふうに思われるのですが、これが提言でないとすれば、もう少し言い方を違うくしないといけないのかな。

(村山国子委員) 以下の部分に関して提言するのでしょうか。

(萩原太郎委員) 以下のでしょう。以下は提言。では、上の1つ目、さらに2つ目は、これは。

(後藤善次委員長) これは、要するに諸元なのです。諸元を求められているものに対してのこちら側の考え方なのです。

(萩原太郎委員) それは、提言というのではなくて、何というのですか。

(後藤善次委員長) 重要な点ですねということでもまとめているのです。要するにこちら側からしか言えない部分というのですか、それは私たちからの特別委員会としてきちんと、こういうところで考えていただいて結構ですよというような意味合いでお伝えしていると。その18行目以下の提言については、もうこれはきちんとした提言であって、ライフサイクルコストをきちんと市民の皆様にも理解をしていただくような施策を取っていくべきだと、そういう意味合いで区分けをしているという、そういう構成なのです。現時点でできる提言というのは、現設計に対してこちら側から、特別委員会として市のほうにお伝えする内容、重要な点と提言と、そんなような形でまとめた中身なのです。

(鈴木正実委員) 先ほどから私もちょっと今の辺りがすごく気になっていた。というのは、建物の話が全体として出てきて、議会の議場とか設備の話、最後にはそれをプラスして西棟全体のことがここで提言されるというスタイルだと思うのですけれども、そうであれば、以下提言いたしますの次の行はもう西棟の整備にあたってはという、西棟整備を極端に前に持ってくるのが分かりやすい文章にな

るのではないかなという気がするのです。結局議会が間に挟まってしまうと、どうしても文章が、西棟全体としてのことに対して言い始めていて、議会というちっちゃいところに来て、また全体としてというふうになったときに、やっぱりその切替えは言葉としてきちっと入らないと。これ後ろのほうに出てきてしまうと、何を、この2点を、視点をもって整備を進める辺り云々というところが前に来てしまっているというのが、ちょっと意味合いとすれば続きが悪いかなという感じがするのです。やはり西棟全体に対して議会は物をこういうふうに申しているのだというのが最後だと思う。その中で議会があるべき姿はこうだという、そこのところが何となくすみ分けをきちっとしたほうが、より提言とすればいいのかな。提言というか、まとめとすればそのほうが、報告とすれば、ベターなのかなという感じがします。

(後藤善次委員長) なるほどね。西棟建設事業についてですね。こういう頭出しは必要なのかもしれないですね。

(高木克尚委員) そうしたほうが諸元と提言、はっきり分かれていい。

(後藤善次委員長) 了解しました。

皆さんから今大変勉強になるご意見を頂きましたので、これをまとめてまいりたいと思います。

それでは、ただいま頂きましたご意見を基に、次回の委員会におきまして修正案をお示ししたいと思っております。

なお、次回の日程につきましては委員会閉会后に協議をさせていただきます。

では、次にその他ですが、3月の定例会議の日程について確認をさせていただきます。21日の議会運営委員会で予算特別委員会の審査日程(案)が確認されましたが、3月定例会議におきまして、当特別委員会においても所管の議案審査が予定されております。1つ目は令和2年度福島市一般会計予算中、新庁舎西棟建設関連予算分、これは基本設計、市民懇談会に関わる予算が想定されておりますけれども、2点目は令和2年度福島市庁舎整備基金運用特別会計予算、3点目が令和元年度福島市庁舎整備基金運用特別会計補正予算でございます。

なお、日程につきましては、3月13日金曜日の予算特別委員会全体会、そして理事会の終了後に行いたいと思います。開会時間につきましては、当日、予算特別委員会の理事会終了後にお知らせをさせていただきますので、どうか日程のほうよろしくお願いたします。13日金曜日の全体会、理事会の後に特別委員会を開催させていただきます。

正副委員長からは以上でございます。皆さんのほうから何かございますでしょうか。

(羽田房男委員) これは別にいいのですね、このままで。新たなものを出したものを会派に持ち帰って議論するという事と。

(後藤善次委員長) そういうことになります。

以上で本日の新庁舎西棟建設調査特別委員会を閉会いたします。

午前10時36分 散 会

新庁舎西棟建設調査特別委員長

後藤 善次